

第3章 課題の整理

第2章での調査結果の分析をもとに、公共交通に係る現状と問題点を整理し、これらを踏まえた課題を以下のように整理します。

3-1 公共交通に係る現状・問題点の整理

(1) 公共交通の重要性が高まる

広陵町の人口動向、定住・転入促進の観点などから、今後、公共交通の重要性がますます高まります。

① 人口減少と高齢化の進展への対応が必要

本町の人口はこれまで増加傾向でしたが、長期的には日本全体と同様に減少すると予想され、現行の人口約 35,000 人に対して、広陵町人口ビジョンでは平成 72 (2060) 年に 3 万人を維持する目標を設定しています。

高齢化は、現行の約 23%から約 30%前後まで進展すると予想されており、他市町村に比べると高齢化率は低いですが、今後、着実に高齢化が進展します。

② 人口減少に歯止めをかけるための定住・転入促進の取り組みが必要

本町の人口減少に歯止めをかけ、人口 3 万人の目標を達成するには、出生率の改善と合わせて、定住・転入の促進が必要であり、公共交通の充実がそのための重要な要素となります。

(2) 公共交通サービスの充実が必要

住民アンケート調査などにおいて、以下のように公共交通の充実が望まれています。

① 公共交通がないと困る人がいる

住民アンケート調査では、全体で約 22%の人が自動車運転免許を持っていません（特に 10 歳代と高齢者）。このため、公共交通が不便なため、困ることがあるという人が約 40%にもなります。

② 公共交通を利用したい人が多い

住民アンケート調査では、現在公共交通を利用している人は約 25%、今は公共交通を利用していなくても、将来あるいは今後可能な範囲で利用したいという人が約 50%もあり、合わせて約 75%の人が将来にわたって公共交通を利用する意向をもっています。

③ 公共交通の充実・維持を望む人が多い

住民アンケート調査では、公共交通の充実・維持を望む意見が約 63%あり、縮小・廃止の約 15%に比べて多く、充実にむけた取り組みが期待されています。

④ タクシーの重要性が高まる

タクシーは、バスを利用できない行き先や時間帯において、高齢者等の移動手段として重要な役割を担っており、今後、その重要性が高まると考えられます。

(3) 鉄道とバスとの連携、サービス改善の必要性が高い

住民アンケート調査では、鉄道を利用していない人のうち、鉄道駅までのバスが便利になっ

たら利用するという人が約 35%もあり、希望する行き先で最も多いのが大和高田駅、五位堂駅、箸尾駅です。

また、路線バスは、主に町内の西部地域において、五位堂駅と大和高田駅へのアクセス交通として機能しています。運行本数は比較的充実していると思われませんが、住民アンケート調査によれば、約 57.5%が運行本数の増便を希望しており、他に運賃の低廉化、バス停までの距離の改善に対する要望が多くなっており、よりサービス水準を高めることが必要と思われま

す。本町では、周辺鉄道駅へのアクセスとなるバス交通を充実させ、バスと鉄道との接続強化を図ることが重要です。

(4) 広陵元気号のサービス改善要望が多い

町内の路線バスは、町の西部地域にしか運行されていないため、町内全域の移動及び町東部地域から大和高田駅、箸尾駅へのアクセスは、広陵元気号が担っています。しかしながら、次のような問題点が指摘されています。

① 通勤・通学利用及び昼間の増便要望

広陵元気号は、以前のデマンド方式から定時定路線方式に変更してから、利用者は約 8.8 倍（H23：2,796 人、H26：24,670 人）にも増えていますが、運行本数が南北線、東西線ともに 6 便（右回り 3 便、左回り 3 便）であり、片方向は 4 時間に 1 便のため、サービス水準がかなり低い状況です。

住民アンケート調査では 30%から 40%、利用者アンケート調査でも約 33%が、広陵元気号は不便と回答しており、特に運行本数の増便に対する要望が多くなっています。

増便としては、昼間の運行本数増に加えて、通勤・通学利用に対する要望が指摘されています。

② 利用の少ないバス停がある

バス停別の利用数をみると、地区・バス停によって利用者数に大きな違いがあり、ほとんど利用のないバス停もあり、見直しが必要です。

③ 路線バスと名称の異なるバス停がある

バス停の設置場所が路線バスと同じであっても、バス停名称の異なるバス停などがあるため、これらのバス停では名称の統一が必要です。

④ デマンド交通についてはニーズが少ない

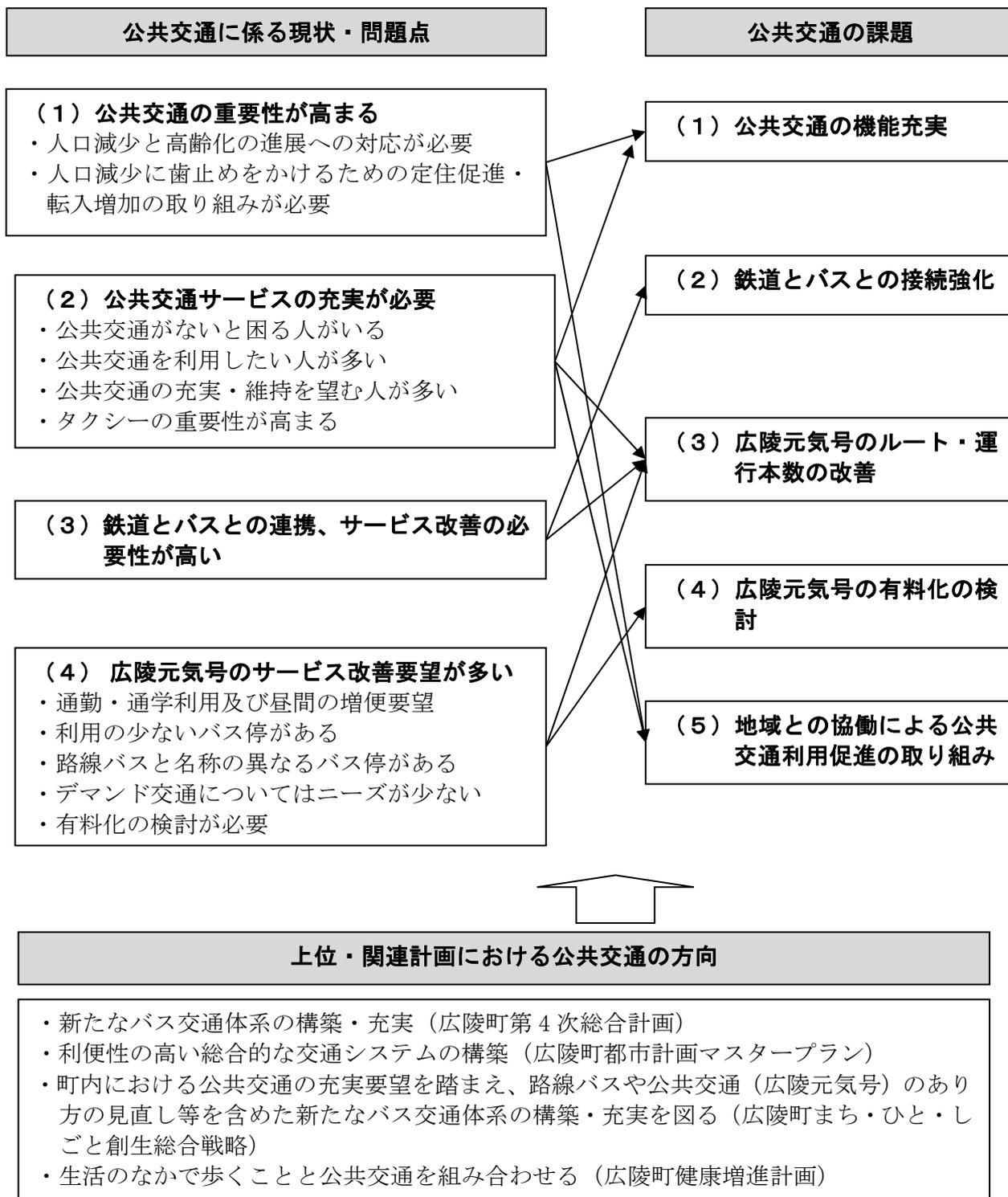
運行サービス方法として、周辺市町でデマンド交通が運行されていますが、本町では利用意向は高くない（住民アンケート調査）こと、平成 23 年度末にデマンド型（予約型乗合自動車）から定時定路線型に変更した結果、利用者数が増えてきていることから、デマンド交通の導入については慎重に判断することが必要です。

⑤ 受益者負担（有料化）の検討

広陵元気号は無料で運行していますが、利用者一人あたり 771 円の経費がかかっており、持続可能な公共交通システムとするためには、受益者負担の考えが必要です。住民及び利用者アンケート調査では、有料になっても利用したいという人が 6 割以上と多く、その料金は 100 円が最も多くなっています。

3-2 公共交通の課題

本町の公共交通に係る現状・問題点及び上位・関連計画を踏まえ、公共交通の課題を次のように整理します。



(1) 公共交通の機能充実

人口減少、高齢化が進展する中で、公共交通の重要性はますます高まっています。

鉄道、バス、タクシーそれぞれの役割にあった機能を充実させ、福祉有償運送とも連携して、町民の公共交通に対する満足度を高める必要があります。

(2) 鉄道とバスとの接続強化

本町では、大和高田駅、五位堂駅、箸尾駅の鉄道駅へのアクセス手段としてのバス交通の役割が重要です。日常の通勤・通学利用のほかに、昼間の買い物、通院、観光などの多様な目的に利用できるバス交通サービスの充実、鉄道との接続強化を図ることが重要な課題といえます。

(3) 広陵元気号のルート・運行本数・車両の改善

広陵元気号については、運行便数が少ないため、増便の要望が多く、通勤・通学利用できる時間帯での運行、昼間の運行間隔の短縮が求められています。

行き先については、鉄道駅、公共施設などへの利用が多いという特性を踏まえ、バス停別の利用数も考慮したうえで、運行ルートの見直しが必要です。その際、バス停の名称を路線バスとあわせるなど、利用者の立場にたった改善が求められます。

利用者から「バスの乗り降りがづらい」という声もあるため、車両を改善する際には、乗り降りのしやすさについても考慮が必要です。

(4) 広陵元気号の有料化の検討

広陵元気号は無料で運行していますが、持続可能な公共交通システムとするためには、受益者負担の考え方を取り入れて有料化することを検討する必要があります。

(5) 地域との協働による公共交通利用促進の取組み

本町では、将来にわたって公共交通を利用する意向が高いですが、現状は、町内の路線バス利用者の減少が見込まれる等、公共交通を維持していくための環境が整っていない状況です。

公共交通を維持していくには、交通事業者や行政の取組みに加えて、地域住民が公共交通の必要性を認識するとともに、地域で守り育てていく観点から、住民と行政が一体となって、利用促進に取り組むことが必要です。